

## 国語科

|     |   |
|-----|---|
| 著者  | 橋本 正恵, 早谷 憲子, 谷口 仁, 折川 司  |
| 雑誌名 | 研究紀要 / 金沢大学附属中学校  |
| 号   | 63  |
| ページ | 13-24   |
| 発行年 | 2021-03-05  |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/2297/00061906">http://hdl.handle.net/2297/00061906</a> |



# 国語科

橋本 正恵

早谷 憲子

谷口 仁

助言者 折川 司（金沢大学）

## 1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

本年度の研究主題である「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成」の教育を進めるに当たって、まず STEAM に移行したことによって新たに加わった Arts とそこに配されている国語科の役割について明らかにしておく必要がある。理工系の要素が強かった STEM では、「より便利に。より効率的に」といった合理性が求められてきた。新たに加わった Arts は、単に芸術的な面だけでなく「哲学」や「教養」などの要素を内包している。これは、とすると効率を優先しがちな STEM に対して、「なぜそれが必要なのか。大切なのか」といった、技術革新の本質を問いかけた要素として組み込まれており、「人間の幸福」とは何かを、より深く追求していくことがその根底にはあると考えられる。文理を融合した多様な視点で人間の幸福につながる優れた技術やアイデアを生み出し、それらを柔軟に活用していく資質・能力を育成する場となることが STEAM 教育には求められる。このことは Society5.0 を主体的に生きる上で重要な要素であると考え。そして、人との関わりの中でさまざまな意見を交流し、思考力や想像力を養う国語科の目標と合致するところであり、新しい社会を牽引する人材を育成するために国語科として果たすべき役割であると考えた。

本校は令和元年度まで伝統文化教育の研究に取り組んできた。長い歴史の中で培われてきた日本人の価値観や美意識は STEM が優先してきた要素とは異なるものであり、伝統文化教育で行ってきた「言葉」に重点を置いた言語活動は STEAM 教育においても継続・発展できると考える。

以上のように、STEAM 教育では、実社会と結びついた課題を通して、資質・能力を育成することが需要であること、また本校国語科がこれまで行ってきた探究的な言語活動を通じた学習活動の工夫を生かして研究に取り組みたいこと、の二点を鑑みて、国語科では「さまざまな題材を用いた探究的な言語活動に取り組み、創造的に問題を解決する力を養う」ことを目標とし、取り組んでいくことにした。

## 2. 資質・能力の育成に当たって

### （1）教科等として育成する資質・能力について

Society5.0 で共通して求められる力は、「①文章や情報を正確に読み解き対話する力」「②科学的に思考・吟味し活用する力」「③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力」と整理されている。①の「文章や情報を正確に読み解き対話する力」はもとより、STEAM 教育における Arts の役割として考えられている、③の「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力」にも注力していきたい。これは、学習活動には高い理解力を示しながらも、問題解決に向ける積極性には乏しい本校生徒の課題に対する手立てとすることもねらいとしている。

そこで、本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力の育成に向けて、国語科では、多様な考えにふれ、意見を交わし理解を深めていくという教科の特性を鑑みて、「よりよく生き

ようとする態度」「多様性の尊重」「対話する力」の育成に重点を置いて、以下のような実践に取り組むこととした。

- ・「ボキャノレポートを書こう」（１年）

語彙ノートの活動を踏まえて、言葉に関する疑問や興味を持ったことについて調べ、レポートにまとめた。下書きの段階で、相互評価を取り入れ、互いの調べ方・まとめ方を共有し、高め合うことができた。

- ・「鑑賞文を書こう」（１年）

校内の美術作品（絵画・壁画・彫刻）に関する鑑賞文を書いた。鑑賞文集としてまとめるという目的を意識して、読み手の立場に立って書くことを重視した。国語科において、「デザイン思考」の育成に取り組むとしたら、という試みとしての実践とした。

- ・枕草子（２年）

枕草子の学習を踏まえて、自分流枕草子を書いた。相互評価をすることで、より良い表現に気付くことができ、お互いの感性や表現を認め合うことができた。

- ・俳句の可能性（３年）

俳句の創作・鑑賞においてディベートを取り入れ、互いの作品に対する質疑を通して、自分の考えをより明確に表すことをねらいとした。また、その活動を見越して、よりよい表現を選択している姿が見受けられた。

- ・高瀬舟（３年）

弟を死なせた喜助の行動が罪かどうか、といった物語を読んで感じた疑問を題材に、グループによる意見交換やディベートを行った。答えのないテーマに対して多様な考えに触れ、意見を重ね合うことで、新しい見方に気づいたり、考えを深めたりする姿が見られた。

## （２）関連・連携を図った教科等について

- ・「鑑賞文を書こう」（１年）

音楽科での「鑑賞」の学習を受けた形として単元を計画した。音楽科で観点をしばって、曲を鑑賞する学習を行っており、観点を立てて鑑賞し、文章にまとめる活動につなげた。

- ・説明の仕方を工夫しよう（２年）

技術で作製した「光るもの」のパッケージを考えた。消費者に向けて作成するものとし、わかりやすく説明するための工夫を考え、それぞれのものに合った説明や表現の工夫を考えた。

- ・魅力的な紙面を作ろう（３年）

音楽で実施する能楽教室での体験について、次年度に体験する後輩に魅力を伝えるための紙面を編集する。学んだことを生かし、工夫して表現することで、経験や情報をわかりやすく発信する能力を育成する。

### 3. 成果と課題

#### (1) 第1学年

1年生では、「本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力」のうち、「対話する力」の育成をねらった学習を設定した。また、試みとして「デザイン思考」の育成について、国語科との関連を探る実践を行った。

「ボキャノレポートを書こう」の単元では、「対話する力」の育成に取り組んだ。本校では、語彙に関する学習活動として、「語彙ノート」の作成を三学年共通してすすめている。1年生では、「ボキャノ」と名付け、具体的な内容は、興味を持った言葉を辞書で調べ記録することである。いろいろな言葉に興味を持って、語彙の量を増やすことをねらいとし、一日一語を記録することにした。「ボキャノレポートを書こう」の単元では、このボキャノ活動で得た、言葉に関する疑問等について調べ、レポートにまとめて、級友に紹介するという活動を設定した。レポートを作成する過程では、4～5名での班で互いに内容や構成を見合ってアドバイスする時間を設けた。言葉に関する知識をクラスで共有することをゴールとしているので、レポート作成の全過程において、読み手を意識して、内容や構成を工夫する姿が見られた。また、班員からアドバイスをもらうことで、「対話する力」の育成につながった。

「鑑賞文を書こう」の単元では、「デザイン思考」の育成を試みた。STEAM 教育において、「デザイン思考」の育成は欠かすことのできない重要な資質・能力であるが、国語科で育成に取り組むとしたら、どのような形で学習活動を設定できるのか、研究初年度の試みとして単元を設定した。校内にある四つの美術作品について、鑑賞文を書き、鑑賞文集としてまとめる活動を行った。「書くこと」を「ものづくり」の一つとして捉え、「リサーチ」「分析」「シンセサイズ（統合）」「ビルド」「テスト」の「デザイン思考」のプロセスを踏んで全4時間（ニーズの把握・鑑賞、構成メモの作成、鑑賞文作成、相互評価）の学習とした。単元の初めには、四つの作品については、ほとんどの生徒が、見たことはあるが、その意味や良さについて、深く考えたことがないという状況であった。鑑賞文集を作成することによって、そのような状況に変化をもたらすことを目標とすることを共有した。最初に鑑賞文を読んだ人にどのようになってほしいのか、という目的を各自が明確にして、文章作成に臨み、鑑賞文の完成後は、初めに設定した内容がどの程度達成されたのかについて、振り返りを行った。国語科としての学習のねらいが達成されたとともに STEAM 教育の目指す「デザイン思考」の育成にも関わる実践となった。

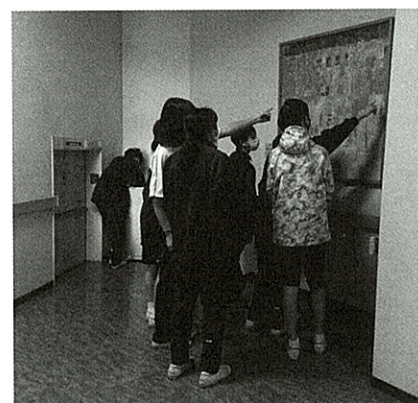
一 文章を読んだ人が、どのようになってほしいですか？

今までは、  
何かかいてあるのが理  
解できなかった。  
↓  
作者のこめた想いに納得さ  
せることができなかった。  
↓  
そのためには、文章にどのような工夫をしたらよいですか。（参考：教科書P15）  
・事実も誰かが思うことも自分なりの発想  
の原で自分の考えを主張しつつ相手を納  
得させる。

読み手に伝わりやすいか、分かりやすいか、などいくつかの観  
点から、文と文とを比べ、表現を工夫しました。表現は、教科  
書と参考にしたりして、一番伝わりやすいのを採用し  
た。

作品の題名を聞いて読み手はどのような事を  
想像、イメージするのかと考え、それを元自分の  
意見を述べることにしました。次は、なぜ読み手が  
そのように想像、イメージするのかと考えていき

単元振り返り（第4時）



鑑賞・構成メモ作成（第2時）

ワークシートの記述（第1時）







ることにつながっていた。また、「自分らしい表現」ができているものから、相手の個性を感じ取っていた。語感を磨き、語彙を豊かにすることは、このような視点で考えると、「よりよく生きる態度」につながるのではないかと考えた。

### (3) 第3学年

3年生では、「本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力」における「対話する力」の取組として、「対話によって学びを深める言語活動」を重視した。学習したことを活用して、自分の考えを表し、他者と比較・共有していく活動を单元ごとに設定し、研究の実践として取り組んだ。

「魅力的な紙面を作ろう」の单元では、「記事を書く」という活動を通して「誰と」「何を」対話し、「どう変化するか」をねらうのか、に焦点を当てた。編集グループ内で対話し、記事における主張の妥当性や資料の信頼性を吟味したり、文章を検討・改善したりする活動を行った。

#### 〈振り返りのワークシートより〉

- ・班で何度も話し合ってみんなが読みたくなるような題材選びができた。
- ・友達からの助言を受け止め、修正が必要かどうかを検討し、判断することができた。
- ・自分の体験を踏まえて書くと、文章の信頼性が増すことがわかった。
- ・今後は紙面作りで使った工夫以外の言葉で、自分の考えを表現できないかを考えてみたい。

読み手の視点で互いの文章を評価・検討することで、生徒たちは読み手に与える印象を想定したり、自分も表現を見つめなおしたりしていた。これにより、単元のねらいである「題材の設定、情報の収集、内容の検討」や「考えの形成、記述」を達成できたことが確認できた。また、今後の書く活動や表現にどう活かせるかを思考している様子も見られた。

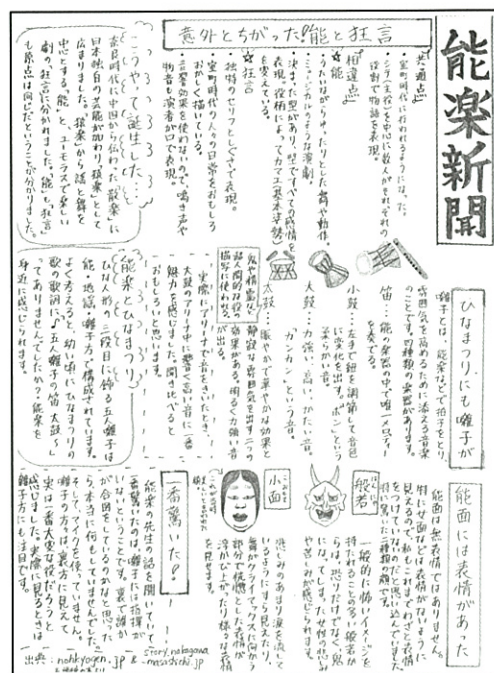
「俳句の可能性」でのディベート活動では、創作した俳句に対する理解を深めようとしたり、より良い表現を助言したりする姿も見られた。学んだことを活用し、考えを交流する言語活動を取り入れることで、目標やねらいが生徒らにとっても明確なものとして活動できたことが成果として挙げられる。

上記のような実践は、教科等横断的なプロジェクトにも活用できるのではないかと考える。

「魅力的な紙面を作ろう」の学習後に、音楽科と連携し音楽教室での体験や学びを、再び紙面にまとめる学習活動を実施した。それぞれの教科で学んだことをどう生かすか、单元での活動とは違った題材に対して、どのような見方や工夫が必要なのかを生徒達は考え、紙面制作に活用していた。行事だけでなく、各教科での学びの実践の場として連携を深めていければ、本校の STEAM 教育における教科等横断的なプロジェクトへの発展も可能ではないかと考えた。



俳句の鑑賞 ディベート活動の様子



能楽教室の活動で作成した紙面

一方で、「実社会とのつながり」のある授業実践が課題であると考え。総論のアンケートにおける「実社会とつながりがあると感じる教科」の項目でも、国語科に対する肯定的な反応は四割程度だった。今後生徒らが自らの考えを、どんな場面で、どのような方法や手段で表現していくのか。想定した上で活動に反映させ、実践していく必要がある。他教科とも連携しながら言語活動の場を設定し、自分の考えを表現することの習慣化と、多様な題材に対する表現の方法を学ぶ学習活動を、国語科において実施していきたい。




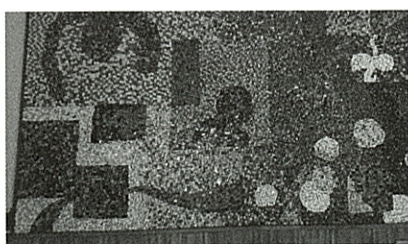
#### 4. 参考文献

- 1) 文部科学省 「Society 5.0 に向けた人材育成 ～ 社会が変わる，学びが変わる ～」  
平成 30 年 6 月 5 日 Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会  
新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース
- 2) ヤング吉原麻里子・木島里江：世界を変える STEAM 人材，朝日新聞出版社，(2019)



# 実践事例

国語 1 年

|  |       |  |            |
|--|-------|--|------------|
| 授業者  | 橋本 正恵 | 授業日  | 11月 17日（火） |
| 授業クラス（時限）  |       | 関係・連携の考えられる教科等と学習内容  |            |
| 1年1組～4組（1～4限）  |       | 音楽「鑑賞」 美術「表現」  |            |
| Society5.0を主体的に生きるための資質・能力<br>・「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」   |       | 教科等で身に付けたい資質・能力<br>・感じたことを伝えるために、必要な内容を考えたり、文章の構成を考えたりする力。<br>【関心・意欲・態度】 |            |
| 実社会とのつながり  |       |  |            |
| <p>本題材は、「書くこと」の言語活動例アの「事実やそれを基に考えたことを書く活動」から設定した。自分が作品を見て感じたことを伝えるために、必要な事柄を収集・整理し、文章を整える活動である。自分が感じたり、考えたりしたことを、言葉を通じて他者に理解してもらうことは、他社と協働して、よりよい社会をつくりあげるために重要な能力であると考え。</p> <p>本時では、完成した解説文の相互評価をすることにより、多様な考え方を尊重する態度の育成につなげたいと考えている。</p> |       |  |            |
| 本時の授業のねらい  |       |  |            |
| 自分の考えを伝えるために、文章の構成や内容の整理など、必要な工夫について考え、自分を吟味し、これまでの学習について振り返る。   |       |  |            |
| 授業の流れ・活動等  |       |  | 時間         |
| 1. 本時の学習について、見通しをもつ。   |       |  | 5          |
| 2. クラスの解説文集を持ち、校内の作品（4か所）を鑑賞する。<br>・時間内に回れる作品を鑑賞する。<br>・はじめに作品を鑑賞してから、解説文を読む。<br>・どの解説文のどの部分が鑑賞に役立ったのかを考えながら鑑賞する。  |       |  | 35         |
| 3. どの解説文のどの部分が、鑑賞の参考になったのかをまとめる。   |       |  | 5          |
| 4. 感じたことを伝えるためには、文章にどのような工夫が大切かについて考える。<br>・自分が工夫した点<br>・足りなかった点<br>・次に鑑賞文を書く際に取り入れたいことなどについて、振り返りをする。   |       |  | 5          |
|   |       |  |            |
|    |       |  |            |
|   |       |  |            |
|   |       |  |            |



1年 単元名「校内芸術作品の鑑賞文集をつくろう」

単元計画（4時間扱い）本時は4時間目

| 次 | 時       | 学習内容・ねらい（■）<br>主な活動等（丸数字）   | 評価規準・手立て（○）<br>指導上の留意点（・）   | 他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力       |
|---|---------|---|---|---|
| 1 | 1       | <b>■鑑賞文の特徴を理解しよう。</b><br>①絵画・彫刻の解説文を読み、鑑賞の観点や文章の展開などの解説文の特徴を確認する。<br>②学習の見通しをもつ。  | ○事象や行為、心情を表す語句に着目し、語彙ノートに書き留めている。<br><b>【知識・理解・技能】</b><br>・書いた鑑賞文は、「鑑賞文集」として、冊子にし、クラス全員に配付することを伝える。                   | （音楽：鑑賞）<br>（美術：表現）<br>「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」 |
|   | 2       | <b>■作品を鑑賞しよう。</b><br>①校内にある4つの作品から、好きなものを選んで鑑賞し、感じたことをメモする。<br>中庭彫刻「潮の華」<br>柏樹ホール壁画「夢の鏡」<br>一階壁画「ブラックホール」<br>一階絵画「初恋（学舎）」<br>②選んだ作品を解説するために必要な事柄を整理し、文章の構成を考える。 | ○自分が考えたことを伝えるために、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。<br><b>【書くこと】</b><br>・作品から感じたことを付箋に画かせ、その内容をもとに全体の文章構成について考えさせる。          | （音楽：鑑賞）<br>（美術：表現）<br>「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」 |
|   | 3       | <b>■解説文を書こう。</b><br>①構想をもとに、鑑賞文の下書きをする。<br>②読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。   | ○表記や語句の用法を確かめている。<br>○叙述の仕方を確かめている。<br><b>【書くこと】</b><br>・次時の相互評価を見通して、自分の考えが伝わるよう文章を整えるよう伝える。                         | 「デザイン思考」  |
|   | 4<br>本時 | <b>■鑑賞文を参考に、作品を鑑賞しよう。</b><br>①自分が選んだ作品以外の作品に関する解説文を読みながら、作品を鑑賞する。<br>②鑑賞文のどの部分が、鑑賞の参考になったのかをまとめる。<br>③感じたことを伝えるためには、どのような工夫が大切かについて考える。                         | ○感じたことを伝えるために、必要な内容を考えたり、文章の構成を考えたりしている。<br><b>【関心・意欲・態度】</b><br>・自分が工夫した点、足りなかった点、次に鑑賞文を書く際に取り入れたいことなどについて、振り返りをさせる。 | 「デザイン思考」  |

# 実践事例

国語2年

|   |       |   |          |
|---|-------|---|----------|
| 授業者   | 早谷 憲子 | 授業日   | 11月2日(月) |
| 授業クラス(時限)   |       | 関係・連携の考えられる教科等と学習内容   |          |
| 2年2組  |       |   |          |
| Society5.0を主体的に生きるための資質・能力  |       | 教科等で身に付けたい資質・能力   |          |
| ・対話する力  |       | ・作者についての事実や事柄, それに対する自分の意見が相手に効果的に伝わるように, 説明や具体例を加えたり, 描写を工夫して書くことができる。【書くこと】 |          |
| 実社会とのつながり   |       |   |          |
| これからの社会を生きていく上で, 他の人の考えに学び, 改善していく力は大切である。自分一人で考え, 独りよがりにならないためにも, 他のものと比較したり, 他の人と対話したりすることで, 自分の考えのよい点や改善点が見いだせると考える。   |       |   |          |
| 今回, 「推し」の作家ガイドを作成する中で, 根拠を持って自分の考えを伝えることが必要となる。また, 「推し」の作家を中学生に紹介するという目的でガイドを作成するので, 他の人が読み, 理解できることや共感できることが重要である。お互いのガイドを読み合い, 話し合いをすることによって, 自分の文章をよりよいものにするための具体的な手立てに気づいたり, 他の人のよい表現を学んだりすることにつなげたい。 |       |   |          |
| 本時の授業のねらい   |       |   |          |
| 自分の「推し」の作家ガイドのよい点や改善点を見いだすことができる。   |       |   |          |
| 授業の流れ・活動等   |       |   | 時間       |
| 1 前時の学習を振り返り, 本時の学習の目標と流れを確認する。   |       |   | 5        |
| ・「推し」の作家ガイドに必要な情報や内容を確認する。  |       |   |          |
| ・作家や作品の魅力が伝わる表現や「推し」であることが効果的に伝わる表現を見付けることを確認する。  |       |   |          |
| 2 班でお互いの作家ガイドを読みながら, 表現の工夫について考える。  |       |   | 15       |
| ・作家ガイドの改善点を示すように促す。   |       |   |          |
| ・班の中で, よいと思った表現の工夫をまとめることを確認する。   |       |   |          |
| 3 班ごとに表現の工夫を発表する。   |       |   | 20       |
| ・よいと感じた表現はワークシートに書かせる。  |       |   |          |
| 4 自分の作家ガイドのよい点や改善点を考える。   |       |   | 5        |
| ・改善するところはどこなのかを明らかにすること, 使いたい表現等も併せて書かせる。   |       |   |          |
| 5 振り返り  |       |   | 5        |
| ・単元の振り返りを振り返りシートにする。  |       |   |          |

2年 単元名 「推し」の作家ガイドをつくろう

単元計画（6時間扱い）本時は6時間目

| 次 | 時       | 学習内容・ねらい（■）<br>主な活動等（丸数字）   | 評価規準・手立て（○）<br>指導上の留意点（・）  | 他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力 |
|---|---------|---|--|---|
| 1 | 1       | ■推しの作家を一人選び、情報を集め、下書きを書く。   | ・ガイドは掲示し、他クラスや他学年の生徒に読んでもらうことが目的であると伝える。   | 「よりよく生きようとする態度」                             |
|   | 2       | ①「推し」の作家を一人決める。<br>②「推し」の作家ガイドで、作家の情報や「推し」であることを伝えるために必要な内容を挙げ、それらに適した調べ方を考えて、多様な方法で情報を集める。<br>③集めた情報を整理し、下書きをする。 | ・複数の情報源で調べることや出典をメモすること、情報の正しさを確認することを伝える。<br>・使いたい語句の一覧を配付する。<br>○抽象的な概念を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。【知識・理解・技能】 |   |
|   | 3       | ■自分のガイドに足りないものを考える。<br>①下書きをグループで確認し合い、必要な情報は何かを話し合う。<br>②各班で出てきた意見を発表する。<br>③アドバイスを生かして自分の下書きを改善する。              | ・各班で出てきた意見を共有することで、必要な情報が何かを確認する。<br>○多様な方法で集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にしている。【書くこと】  | 「対話する力」                                     |
|   | 4<br>5  | ■改善点を確認し、構成や表現を工夫する。<br>・①改善点を確認し、清書をする。<br>②表現を工夫する。   | ・清書前に前回の授業で各班から出た改善点を確認する。<br>○表現の工夫を考えて、作家への思いや作品の魅力等を伝えようとしている。【関心・意欲・態度】  |   |
|   | 6<br>本時 | ■自分のガイドのよい点や改善点を見いだす。<br>①班ごとにそれぞれの作家ガイドを読み、表現の工夫を見つける。<br>②班ごとに見つけた表現の工夫を発表する。<br>③自分の作家ガイドのよい点や改善点を考える。         | ・作家や作品の魅力や「推し」である思いが伝わる効果的な表現を探すことを確認する。<br>○表現の工夫とその効果などについて読み手からの助言などを踏まえ、自分のガイドのよい点や改善点を見いだしている。<br>【書くこと】                | 「対話する力」                                     |



# 実践事例

国語 3 年

|  |      |  |           |
|--|------|--|-----------|
| 授業者  | 谷口 仁 | 授業日  | 11月 2日(月) |
| 授業クラス(時限)  |      | 関係・連携の考えられる教科等と学習内容                          |           |
| 3年 2組(5限)  |      |  |           |
| Society5.0を主体的に生きるための資質・能力   |      | 教科等で身に付けたい資質・能力                              |           |
| ・「対話する力」   |      | ・助言をもとに、魅力的な記事になるよう工夫し、作品を完成させている。【関心・意欲・態度】 |           |
| 実社会とのつながり  |      |  |           |
| 本題材は、「書くこと」の言語活動例イ「情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動」を基に設定した。これからの社会において、目的に合わせて必要な情報を取捨選択し、伝える相手や内容にあわせて表現の仕方を考えることは欠かせない能力である。<br>本時では、読み手の立場になって互いの文章を評価し、わかりやすく書くための具体的な視点を得るとともに、より良い表現を目指す粘り強い取り組み方につなげていきたいと考えた。 |      |  |           |
| 本時の授業のねらい  |      |  |           |
| 魅力的な記事になるよう、表現を工夫しながら作品をまとめることができる。  |      |  |           |
| 授業の流れ・活動等  |      |  | 時間        |
| ※これまでの学習の流れ<br>グループごとにメディアで取り上げられている事柄について、自分たちの考えを伝えるための記事を作る学習活動。「誰に伝えるか」という目的を設定して編集会議を開き、必要な資料や情報、文章表現について意見を出し合い、書くために必要な素材を前時までに集めて下書きを書いている。  |      |  |           |
| 1 グループで意見を出し合い、魅力的な記事やその表現を考える。【グループ】<br>・分量や配置を含めた、読み手に伝わる表現について考える。<br>・工夫することとそのねらいを具体的に記述する。   |      |  | 5         |
| 2 代表生徒数名が発表し、全体で共有する。  |      |  | 3         |
| 3 グループで下書きを読み、助言し合う。【グループ】<br>・読者の立場に立って読み合い、互いに評価する。  |      |  | 12        |
| 4 助言をもとに文章・作品を推敲し、清書する。【個人】  |      |  | 25        |
| 5 本時の振り返りをする。<br>・本時で考えたことを整理し、次時の相互評価に繋げる。  |      |  | 5         |

3年 単元名「自分たちの考えを伝えるための、特集記事を編集しよう」

単元計画（5時間扱い）本時は4時間目

| 次 | 時           | 学習内容・ねらい（■）<br>主な活動等（丸数字）   | 評価規準・手立て（○）<br>指導上の留意点（・）  | 他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力 |
|---|-------------|---|--|---|
| 1 | 1           | ■特集記事の内容を選ぼう。<br>①記事にしたい内容を決め、その文章と材料を各自で考える。<br><br>②グループで案を見比べ、記事で特集する内容を決める。                                 | ○自分の思いや考えが効果的に伝わる表現や工夫を考えている。<br>【書くこと】<br>・「誰に対して」「どんな出来事を取り上げ」「どんな考えを伝えたいか」を明確にし、その目的に沿った表現や工夫を考えるよう促す。                      | 「よりよく生きようとする態度」                             |
|   | 2<br>・<br>3 | ■編集会議を開き、魅力的な紙面の要素を考えよう。<br>①グループでまとめる内容と担当箇所を決める。<br><br>②担当箇所について不足している情報を集め、下書きする。                           | ○伝えたい内容にふさわしい表現・情報を選択している。<br>【書くこと】<br>・集めた情報は根拠を確認したり、他の情報と比較したりして、正確かどうかを確かめて整理させる。   |   |
|   | 4<br>本<br>時 | ■魅力的な記事になるよう、構成や表現を工夫しながら作品をまとめよう。<br>①紙面構成や表現の工夫を考える。<br><br>②グループで下書きを読み、助言し合う。<br><br>③助言をもとに文章・作品を推敲し、清書する。 | ○助言をもとに、魅力的な記事になるよう工夫し、作品を完成させている。【関心・意欲・態度】<br>・分量や配置など、読み手に伝わる紙面構成を考えさせる。<br>・読者の立場に立って読み合い、互いに評価させる。                        | 「対話する力」                                     |
|   | 5           | ■特集記事を互いに評価し、伝えるために必要なことを考える。<br>①互いに記事を読み合い、評価する。<br><br>②単元の振り返りをする。  | ○記事の構成の工夫とその効果について考え、意見を述べている。<br>【書くこと】<br>・推薦する記事の一つを選び、その理由をこれまでの学習を基に考えさせる。<br>・自分の考えが分かりやすく伝わる文章に必要なことを、交流した記事を根拠にまとめさせる。 | 「対話する力」                                     |
| 2 | 後<br>日      | 能楽教室での体験について、単元で学んだことを生かし、魅力を伝えるための記事を編集する。   |  | （音楽：能楽）<br>「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」      |